立命館大学高等教育研究論文タイトル

－論文副タイトル－

立命　太郎

要　旨

　要旨は、400字以内とする。この論文では、日本の大学評価制度改革の概要を紹介するとともに、大学の自己点検・評価をふまえた日本の大学にふさわしい大学評価の仕組みを構築するために、その改革課題を整理することを試みる。

キーワード

○○○○、○○○○、

１ はじめに（見出しは、ゴシック体、10.5ポイント）

　大学評価とは、大学等の高等教育で行われるさまざまな活動の実態を、関連した情報や資料

をできるかぎり科学的な手続きで収集・分析して明らかにするとともに、それらの活動の意義

や価値、問題点などを判断したり評価して、その成果を実践的に活用することを意味する言葉

である（江原、1984年、15頁；江原、1998年、７頁）。日本語の「大学評価」に近い意味をもつ英語は「アカデミック・エバリュエーション」だが、「ユニバーシティ・エバリュエーション」も使われることがある（Dill, 2003, pp.29-30）（本文は、明朝体、10.5ポイント）。

表1　表タイトル

表

図

図1　図タイトル

２ 評価主体別にみる大学評価の動向と問題点

2.1 強化される行政主導の大学評価

**注**

1) 「学びの実態調査」は、立命館大学教育開発推進機構の教学IR（Institutional Research）プロジェクトが実施する全学規模の学修行動調査（Student Survey）で、新入生調査（1回生に実施）、在学生調査（2、3回生に実施）、卒業時調査、あるいは他部局と協同で開発中のものを含めると「卒業生・修了生アンケート」や「大学院生調査」などがある。ほとんどの学部で学生にIDを記入させることにより、入試形態、学業成績やGPA、就職データなどとリンクさせることが可能で、立命館大学において学生が身につけた知識・技能・態度を正課内外から分析し、その結果を学部の教学改革に反映させている。

2) アメリカの適格認定協会をはじめ、各国の大学評価制度の概要については、米澤他、2000年、174-178頁；吉川、2004年、50-51頁；馬越、2004年、9-10頁；日永、2000年、158-160頁；早田、2003年、124頁などを参照。

3) 認証評価機関による大学評価の問題点や課題については、早田、2003年、124頁；合田、2004年、8-9頁；舘、2005年、8-9頁、14-15頁、16-17頁；工藤、2005年、83頁；リクルート　カレッジマネジメント編集部、2008年、5-7頁などを参照。

**参考文献**

江原武一「アメリカにおける大学評価」慶伊富長編『大学評価の研究』東京大学出版会、1984年、15-29頁。

江原武一『大学のアメリカ・モデル―アメリカの経験と日本』玉川大学出版部、1994年。沖裕貴・井上史子・林泰子「日本の大学におけるルーブリック評価導入の方策と課題－客観的，厳格かつ公正な成績評価を目指して－」日本教育情報学会第28回年会『年会論文集』、2012年、166-169頁。

江原武一「高等教育におけるグローバル化と市場化―アメリカを中心として」『比較教育学研究』第 32号、2006年、111-124頁。

Rice, R.E. “Enhancing the Quality of Teaching and Learning: The U.S. Experience.” New Directions for Higher Education, No.133, 2006, pp.13–22.

Wiggins, G. *“Educational Assessment: Designing Assessments to Inform and Improve Students Performance”,* Jossey-Bass A Wiley Imprint, 1998.

How to Introduce Rubrics into Japanese Universities:

Aiming at Fairness, Objectivity and Rigor in Assessment of Performance

RITSUMEI Taro (Professor, Institute for Teaching and Learning, Ritsumeikan University)

Abstract

Central Education Council Report published in August, 2012 showed an urgent issue as to clarifying competence developed in undergraduate programs and introducing fair, objective and rigorous assessment of performance, in order to promote and strengthen the conversion movement in quality assurance of Japanese universities.

Key words

○○○○，○○○○